THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
発行所　日本農業新聞
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2番3号
www.agrinews.co.jp
2024年（令和6年）
12 15
日本農業
（第3種郵便物認可）

書評

北海道の酪農家との交流がリアルに描かれるのが、後半の実践編の酪農家のセージを発信している。

おすすめ道 書店

ニッポンはおいしい！

金丸弘美・著

「食と農から未来は変わる。地域に豊かさをもたらす女性たちの活躍」と銘打った書籍だ。女性が主役の、農業と食から持続社会につなぐ「実践活動リポート」となっている。

基となったのは、上野千鶴子・東大名誉教授が理事長をしている「WAN（ウィメンズアクションネットワーク）」でのウェブ連載「金丸弘美のニッポンはおいしい！」である。農の現場を取材してきた著者が、各地の農村女性の活躍をまとめている。農業と食から持続社会につながる活動をしている女性たちを、6章を各章2人ずつ、計12人に分けて掲載する。創意工夫を生かすチャンスがあれば、さまざまな成果を生み出せる、そんな可能性を知ることができる。

（理工図書、2090円）

味の世界史

玉木俊明・著

副題は「香辛料から砂糖、うま味調味料まで」。本書の目的は、味の歴史、食の歴史、世界観の歴史、輸送の歴史、産業革命の歴史に踏み込みながら、古代、中世、近世、近代から現代までの、味の世界史を論じることだという。

本の構成は、「はじめに」で、「なぜ『味』で世界史をたどるのか」を提起。続いて「香辛料貿易のはじまり」「香辛料貿易とヨーロッパの拡大」「香辛料から砂糖へ」「砂糖と資本主義経済」「第二次産業革命がつくりあげた世界」、そして「おわりに」で「諸島から見た世界史」を展開する。

本書を通じて、「味」が世界史を動かしてきたというテーマを掘り下げ、そこから食の多様性がどう成立したのかを知ることになる。

（SB新書、1045円）

ブルー・マシン

ヘレン・チェルスキー・著

副題は「海というエンジンと人類史」。著者は英国マンチェスター生まれの物理学者。本書は海―ブルー・マシンを、地球のエンジンとして位置付ける。その海は、太陽エネルギーを受けて、それを変換・放出し、大気中の水分、気温などのあらゆる地球環境をつくり出しているのだ。

ところが、人類による環境破壊により、精緻なシステムは限界を超え、温暖化や異常気象をはじめ、地球規模の危機が訪れている。わが国でも洪水や台風などの自然災害が深刻化を増すばかりだ。そんな現代、地球の環境問題を解く鍵は「海」にあるとし、それを知る必要があるというのだ。

本書は、人類が進むべき道筋を探るための「はじまり」の一冊だ。

（エイアンドエフ、3520円）

タネまく動物

小池伸介、北村俊平・編著
きのしたちひろ・イラスト

副題は「体長150センチメートルのクマから1センチメートルのワラジムシまで」。種子（タネ）の散布に関わる動物と植物の関係について、近年次々と新しい事実が明らかになっているという。食べられて、ためられて、くっついて……。タネをまく動物と植物は、どのように進化してきたのか。生態系での動物と植物の相互作用の、象徴的な現象である「種子散布」に関する最新の研究を紹介している。

ツキノワグマや猿、コウモリなどの哺乳類、カラスやヒヨドリなどの鳥類、糞虫、ワラジムシなど、20種類以上の多種多様な動物が登場し、タネの散布の真実に迫る。絶妙なバランスの上に成り立つ自然界の不思議を実感できる。

（文一総合出版、1980円）